

2020年1月に新型コロナウイルス感染症の感染者が国内で初めて確認されて以降、われわれの生活は一変した。20年は全国一斉休校に始まり、緊急事態宣言の発令、不要不急の外出自粛の要請など個人や企業のさまざまな行動が規制された。なお、1回目の緊急事態宣言が発令された4月7日におけるPCR検査の陽性判定者数は、全国で365人であった。



儀武 玄秀

## 論壇

21年は3回の緊急事態宣言とまん延防止等重点措置が発令され、引き続きさまざまな行動規制がなされた。新型コロナウイルスの接種も開始された。22年は都道府県ごとに感染対策がとられ、ワクチンのブースター接種も始まった。これまでの諸対策には約300兆円が投じられ

たが、その効果は検証されないまま、今に至っている。大元に立ち返って考えてみたい。当初報じられたのは未知のウイルスによる感染症が発生し治療方法もよく分からないということであった。この報を受け、ウイルスに感染したらすぐ死んでしまうというイメージを

に、新型コロナウイルス感染症については死後にPCR検査で陽性と判定されれば、厳密な死因を問わず死亡者数にカウントされている(20年6月18日付厚生労働省通達による)。例えば、交通事故で負った傷が原因で失血死しても、PCR検査の結果が陽性であれば、コロナ死

# 望まれる冷静な主体的行動

### 3年に及ぶ「コロナ・パニック」

持つ人もいた。しかしその後、日本ではさほど深刻な病気ではないことが分かってきた。

と扱われる。

こからきたのか。以上を前提にすると、日本社会は、コロナ禍にあるというよりは「コロナ・パニック」に陥っているといえよう。パニックに陥ると、人は理性や常識を失い、異常な行動をとる。例えば、マスクを着けていない者を公衆の面前で罵倒したり、ワクチンを打つよう職場で事実上強制したりするなどである。いずれも犯罪に当たり得る行為だが、この3年間に実際に見聞きしたことである。

日本全国における20年の新型コロナウイルス感染症による死者数は3459人であり、19年のインフルエンザによる死者数3575人とほぼ同じである(人口動態調査による)。さら

そうすると、新型コロナウイルス感染症による死者数は実際にはインフルエンザによる死者数を下回ると推測できる。ほとんど話題に上らなかつた19年のインフルエンザと、社会を混乱させた20年の新型コロナウイルス感染症、両者の違いは一体ど

われわれはこのような異常な状況を一刻も早く終わらせ、以前の正常な社会を取り戻すべきである。政府からの指示を待つて行動するのでは遅きに失する。一人一人が冷静に自らの頭で考え、主体的に行動することが望まれる。(那覇市、専門学校講師、51歳)